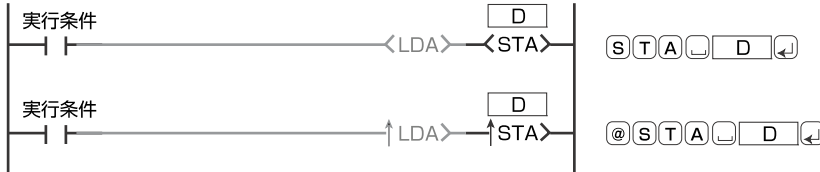


STA	STA(.U)	←STA→	ストアA	内部レジスタのデータを指定したデバイスに格納します。
	STA.S			
	STA.D			
	STA.L			
	STA.F			
	STA.DF			
@STA	@STA(.U)	↑STA→		
	@STA.S			
	@STA.D			
	@STA.L			
	@STA.F			
	@STA.DF			

ラダープログラム

入力方法



オペランド	使用可能デバイス (): KV-1000は対応していません																インデックス 修飾				
	ビットデバイス								ワードデバイス									定数	間接指定	ローカル デバイス	
	R	(DR)	MR LR (B)	T	C	CTC	CR	DM TM (W)	EM FM (ZF)	T	C	CTH	CTC	Z	CM	＃/\$					＃TM
[D]	○	-	○	-	-	-	○	○	○*5	○*3	○*3	-	○*3*6	○*4	○	-	○	○	○	○	○

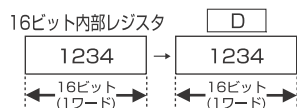
オペランド	説明
[D]	内部レジスタのデータを格納するデバイスを指定します。*1 *2

- *1 [D] に T, C, CTC を指定した場合、設定値として格納されます。
- *2 KV-5500/5000/3000、KV Nano シリーズでは、[D] にビットデバイスのチャンネルの先頭番号以外を指定した場合、次のチャンネルにまたがってデータを格納します。
KV-1000 では、[D] にビットデバイスのチャンネルの先頭番号以外を指定した場合、次のチャンネルにまたがったデータは格納されません。
- *3 サフィックスが「.F」または「.DF」の場合、指定できません。
- *4 サフィックスが「.DF」の場合、Z は指定できません。
- *5 KV Nano シリーズでは、EM、FM (ZF) は使用できません。
- *6 KV-7000 シリーズでは、CTH、CTC は使用できません。

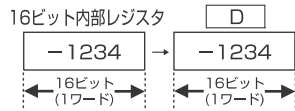
ポイント STA.DF (@STA.DF) 命令は、KV-7000 シリーズ CPU ユニット、CPU 機能バージョン 2.0 以降の KV-5000/3000 シリーズ CPU ユニット、KV Nano シリーズ基本ユニットで使用できます。
[□「KV-5000/3000 CPU 機能バージョンについて」\(2 ページ\)](#)

動作説明

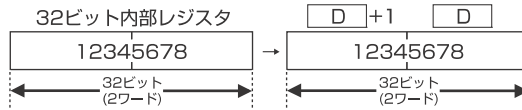
STA(.U) 実行条件が ON のとき、16 ビット内部レジスタに格納されている 16 ビット符号無し BIN データを [D] で指定したデバイスに格納します。



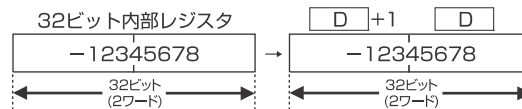
STA.S 実行条件がONのとき、16ビット内部レジスタに格納されている16ビット符号付きBINデータを[D]で指定したデバイスに格納します。



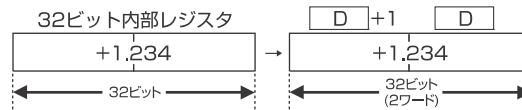
STA.D 実行条件がONのとき、32ビット内部レジスタに格納されている32ビット符号無しBINデータを[D]・[D]+1で指定したデバイスに格納します。



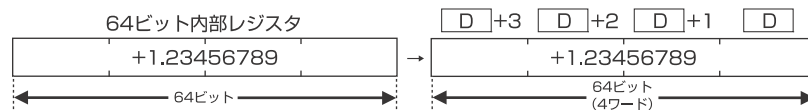
STA.L 実行条件がONのとき、32ビット内部レジスタに格納されている32ビット符号付きBINデータを[D]・[D]+1で指定したデバイスに格納します。



STA.F 実行条件がONのとき、内部レジスタに格納されている単精度浮動小数点型実数を[D]・[D]+1で指定したデバイスに格納します。



STA.DF 実行条件がONのとき、内部レジスタに格納されている倍精度浮動小数点型実数を[D]・[D]+1・[D]+2・[D]+3で指定したデバイスに格納します。



@STA. 実行条件の立ち上がりで、1スキャンだけ実行します。

ポイント [D]に間接指定でT、Cを設定した場合、正常に動作しません。

演算フラグ

CR2009	変化なし
CR2010	変化なし
CR2011	変化なし
CR2012	間接指定またはインデックス修飾の範囲が不適切な場合はON、それ以外はOFF。 オペランドに間接指定、インデックス修飾を指定していない場合は変化しません。

※ CR2012がONした場合、命令は実行されません。

[KV-7500/7300/5500/5000/3000] CR2012がONした場合、CM5150～CM5176にエラーの詳細情報が格納されます。

[KV Nanoシリーズ] CR2012がONした場合、CM2250～CM2276にエラーの詳細情報が格納されます。

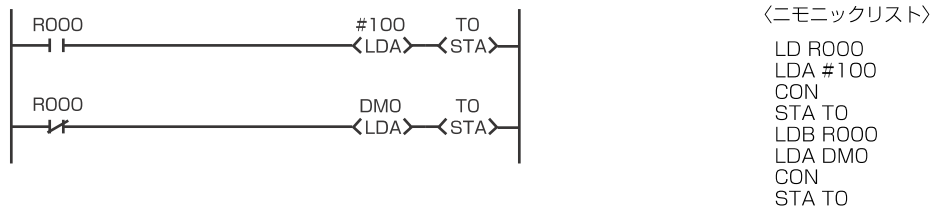
📖 「CR/CM一覧」(付-71ページ)

MOV
LDA
STA
PLDA
PSTA
TMIN
DW
BMOV
FMOV
PMOV
BYLMOV
BYBMOV

サンプルプログラム

タイマの設定値を変更する場合

入力リレーR000がONのとき、タイマT0の設定値を#100にします。
 入力リレーR000がOFFのとき、タイマT0の設定値をデータメモリDM0に格納されている値に変更します。



タイマ・カウンタの現在値を変更する場合、MOV命令を使用します。

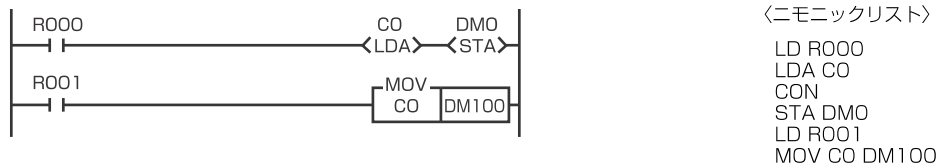


ポイント 設定値を変更した際の現在値について

- STA命令を実行した結果、現在値>設定値のとき、現在値は設定値と同じ値に変更されます。

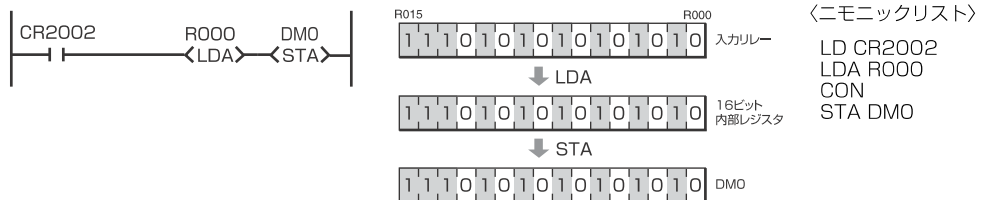
カウンタの現在値をデータメモリに転送する場合

入力リレーR000がONのとき、カウンタC0の現在値をデータメモリDM0に格納します。
 入力リレーR001がONのとき、カウンタC0の現在値をデータメモリDM100に格納します。

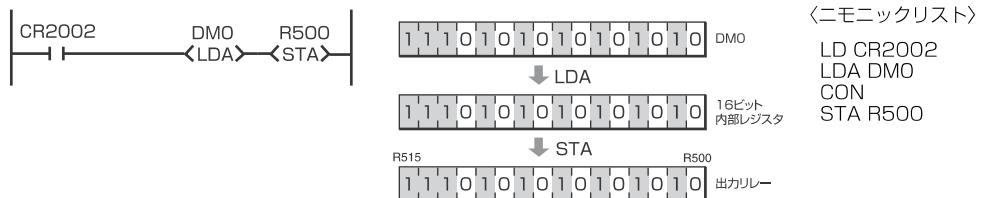


オペランドにビットデバイスを指定した例

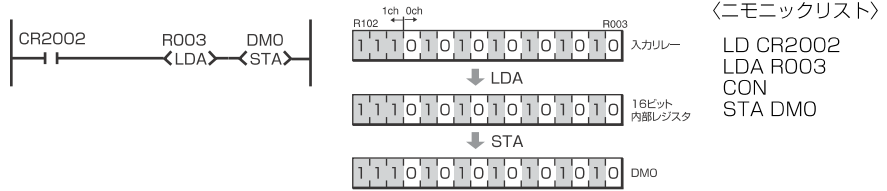
入力リレーR000～R015の状態をデータメモリDM0に格納します。



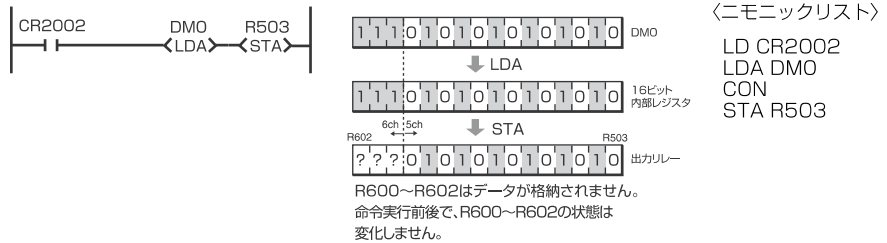
データメモリDM0の状態を出力リレーR500～R515に出力します。



参考 LDAのオペランドで指定したビットデバイスがチャンネルをまたぐときは、チャンネル間をまたいだ16ビットの状態を内部レジスタに格納します。



参考 [KV-1000] STAのオペランドで指定したビットデバイスがチャンネルをまたぐときは、チャンネル間をまたいだビットへデータは格納されません。



KV-7500/7300/5500/5000/3000、KV Nano シリーズではチャンネル間をまたいで格納されません。

演算命令

4

データ転送命令

MOV
LDA
STA
PLDA
PSTA
TMIN
DW
BMOV
FMOV
PMOV
BYLMOV
BYBMOV